

# 意見陳述書

2020年7月3日

大阪地方裁判所第16民事部合議1係 御中

- 1 私は原告のTです。昭和39年11月20日に生まれ、現在55歳です。約33年間、電工として家族のために、吹付材やボードの粉じんまみれながら必死に働いてきました。
- 2 私が最初に体の異変を感じたのは平成29年12月頃でした。原因が分からず、病院を転々としてきました。3つ目の岸和田徳洲会病院で悪性腹膜中皮腫と確定診断を受けましたが、そこでは治療を受けることができませんでした。やっと抗がん剤治療を受けることができたのは5つ目の岡山労災病院で発症から5か月が経過していました。その間にも体の状態は悪化、痛みが全身まで及び車イスがないと移動できないほどになっていたため、希望したオブジーボの治療を受けることはできませんでした。この病院での主治医によって私の病気はアスベスト曝露による悪性胸膜中皮腫が原発であると診断されました。
- 3 その後、抗がん剤治療によって体調が落ち着いていたものの、令和1年8月頃に再び中皮腫の進行が始まったため、和歌山労災病院では躊躇する間もなくはじめてオブジーボを使うことになりました。肺炎併発など30日に及ぶ入院治療後、何とか9月の原告本人尋問を乗り切りました。11月、12月にはオブジーボが奏功していたので中皮腫の進行も止まり、副作用も特になかったため家族と本当に喜びあっていました。
- 4 ところが、令和2年1月の8回目の投与以降、突発的な発熱や腹痛を伴う下痢に襲われました。検査の結果、肝臓がひどく炎症を起こしており、緊急入院となりました。その後、3月の9回目の投与後には、発熱が頻繁になり脇腹がひどく痛むようになって、腹膜炎を併発しました。そして、それらの症状は残念ながらオブジーボの副作用によるものでした。この時は、全身に及ぶヒョウ柄のような発疹も出て、目の充血や目ヤニ、唇の腫れを伴いました。ステロイドを投与され、そのためにますます体が弱っていくのを感じました。緊急入院以降、3回の入退院を繰り返して合計で46日も入院しましたが、とても長く不安な期間でした。

やっとのことで退院したものの、6月中旬には再びオブジーボの副作用による胆のう炎を発症。そのため現在もステロイド薬を服用しています。免疫力は低下したままで、新型コロナウイルスはもちろん風邪すら恐れています。
- 5 何より辛いのは、最後の望みであったオブジーボが副作用のせいで、使えなくなった

ことです。今後の治療法が全て断たれてしまいました。これからこの恐ろしい病気とどのように対峙すればいいのでしょうか。絶望が襲い中皮腫の痛みや進行にも怯えながらこのまま死を迎えると思うと恐怖と不安でとてもやり切れません。家族の多大な心労を考えると無念でなりません。

- 6 私たちは知りませんでした。被告の国やメーカーはアスベストの危険性を古くから知っていました。しかし国は対策をとらず、むしろアスベスト含有建材をメーカーと一緒に全国へ普及させました。メーカーは国と一緒にいつまでも売り続けました。このような被告らに対して激しい憤りを覚えずにはいられません。お願いですから今すぐこの病気に打ち勝つ薬と治療法をください。このまま痛みを耐えながら死を待てと貴方たちは傍観するのですか。

出来ることなら家族とともに普通の平和な人生を歩みたかったです。かけがえのない人生を奪った被告らを絶対に許すことはできません。

- 7 私たち中皮腫患者が集う会があります。そこでは患者同士が励ましあい、治療について情報交換をしています。誰もが生きることと精一杯で、限られた時間の中で希望だけは失わないよう病気と闘っています。しかし、無情にも力尽きてこの世を去ってしまう仲間が後を絶ちません。本日、尋問予定であったIさんもお亡くなりになったと聞いております。これらのアスベスト被害による仲間たちの死は報道されないで殆どの人を知ることなく関心すらありません。実害を被るまでは、恐ろしいことです。

- 8 こんな酷いことは絶対に許されてはなりません。私たち被害者は気づかぬうちにアスベストに曝露し耐え難い苦痛を味わいつづけています。謝罪や救済をしてもらうことなく悔しい思いのままであの世へと旅立つなんて考えたくもありません。私みたいな犠牲者をこれ以上増やしてはならないのです。

治療法も確立していない中、私がこの病気と闘うにはあまりにも時間が足りません。今までに述べた一つ一つの事実としっかり向き合い、一日も早く正当な判断をください。お願いします。被害者本人や家族が受けるこの苦痛と恐怖が法の正義によって安堵に変わる判断をください。そして今後私と同じような被害がおきても、みんなを区別なく救済してください。

そのときが来るまで私は何度でも声が出る限り命がある限り叫びつづける決心です。

以上をもってこの裁判にかける私の願いを終えたいと思います。